



集落支援だより vol.44



第 3 回柱島講座（専門家派遣事業）



いざというときに頼りになるのは「繋がる！広がる！」地域の輪

7 月も県の専門家派遣事業を活用し、(株) ローカルラボ・千々松講師による「第 3 回柱島講座」が柱島供用会館において開かれました。

午前中は、2つのグループに分かれ、印刷された柱島地図を見ながら、今、大きな課題である島の後継者や担い手の確保につながる「空き家」や「島出身者の情報整理」「高齢者目線で考えた港までの交通手段」などを中心に、出席者全員から情報をお聞きし、地図上に書き出すなどの作業を行いました。

午後からは、柱島公式 LINE（ライン）の開設を目指して、若い世代を中心としたワークショップ（グループ学習）が開かれました。柱島公式 LINE(ライン)は、島外に住む島出身者やその家族を対象に、柱島のイベント・行事・住まい（空き家）・定期船欠航の情報など、様々な島情報を発信し、みんなで共有認識できる利便性の高い「島の伝言板」ツール（手段）となるため、開設について具体的な話し合いが行われました。

この講座を受けて、現在、柱島公式 LINE（ライン）が開設されており、右の QR コードを読み取ると登録ができます。

柱島出身者の皆さまはぜひ登録して、島情報を受信しましょう。



柱島公式ライン



岩国市

農業祭

岩国市地方卸売市場

お知らせ



今年も残念ながらコロナの影響により、柱島へ知事を招いての「**元気創出！どこでトーク in 柱島**」の開催が延期となり、「**柱島ふるさと祭り**」も中止となりました。

先日、「機関誌若潮」の中に、ある地域研究識者が次のことを提唱されていたのでご紹介します。

「地域において人が減ってもすぐに地域は衰退しないが、祭り・イベントなどの取組等が尽きると地域はすぐに衰退していってしまう」「地域の高齢化や人口減少に伴い、ひとりの力ではできないことや地域の力だけでも限界があることは必然的なことではあるが、しかしながら地域から積極的な情報発信を展開し、外部とのつながりを広げ、外からもどんどん関わってもらえる架け橋となるような取組や活動を講じることは、持続可能な地域づくりを推進していく上では大切なことではないだろうか」というようなことを述べておられました。

また、「季刊・しま」においては、三大都市圏の5万人の組合員に「定年後は、どこで、何を、暮らしますか」といったアンケート調査を行ったところ、4割の方が「田舎に戻り、年金を糧にゆうゆう自適に暮らしたい」との回答があった。「だったら田舎に帰れる仕組みをつくらうじゃないか」という話となり、島で働くために活動する組織をつくり、漁協などの地域団体も加わって地域全体での活動に発展したそうです。ポストコロナを見据えた先進事例が掲載されていたので紹介します。